

米国 製造業部門の回復ペース加速に歯止めも依然堅調さ維持 (10年6月 I S M製造業景気指数)

発表日：2010年7月1日（木）

～引き続き世界的に製造業部門は速いペースで回復～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

**I S M製造業景気指数
は 56.2 と前月比▲
3.5%低下し市場予想を
下回ったが水準は高い**

6月のI S M製造業景気指数は56.2と前月比▲3.5%低下し、市場予想の59.0を下回った。在庫が変わらずとなった一方で、新規受注（前月比▲1.4%ポイント）、生産（同▲1.0%ポイント）、入荷遅延（同▲0.7%ポイント）、雇用（同▲0.4%ポイント）が押し下げ寄与となり、総合指数は前月比▲3.5%ポイント低下し、急激な回復に歯止めがかかった。ただし、拡大縮小の分岐点である50を11ヵ月連続で上回っているうえ、高い水準を維持しており、製造業部門は速いペースで回復している。さらに、拡大した業種数が13業種（前月16業種）と、引き続き広がりを持った製造業の回復を示している。各国の景気刺激策による需要拡大、在庫調整の進展によって、製造業部門の回復傾向は持続している。

予想を下回った同統計や5月の中古住宅販売契約指数が大幅に減少したことから、発表直後の市場では、株価が下落し、10年債利回りは低下した。為替市場では、ドルは対円、対ユーロで弱強含んだ。

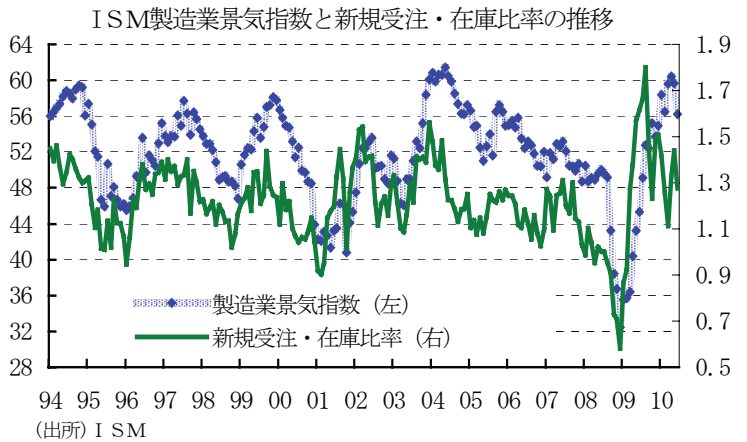
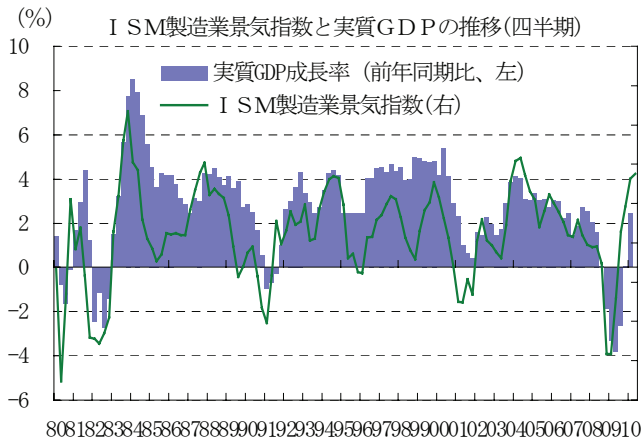
I S M (the Institute for Supply Management) の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
09/08	52.8	63.0	62.9	47.0	35.0	56.0	52.5	65.0	55.5	49.5
09/09	52.4	59.9	57.5	46.5	41.2	56.8	53.5	63.5	55.0	52.0
09/10	55.2	58.3	62.2	51.8	47.3	56.3	53.5	65.0	55.5	51.0
09/11	53.7	61.5	60.2	49.6	41.4	55.7	52.0	55.0	56.0	51.5
09/12	54.9	64.8	59.7	50.2	43.0	56.8	50.0	61.5	54.5	55.0
10/01	58.4	65.9	66.2	53.3	46.5	60.1	56.0	70.0	58.5	56.5
10/02	56.5	59.5	58.4	56.1	47.3	61.1	61.0	67.0	56.5	56.0
10/03	59.6	61.5	61.1	55.1	55.3	64.9	58.0	75.0	61.5	57.0
10/04	60.4	65.7	66.9	58.5	49.4	61.3	57.5	78.0	61.0	58.0
10/05	59.7	65.7	66.6	59.8	45.6	61.0	59.5	77.5	62.0	56.5
10/06	56.2	58.5	61.4	57.8	45.8	57.3	57.0	57.0	56.0	56.5

**I S M製造業景気指数は
緩やかに低下する可能性**

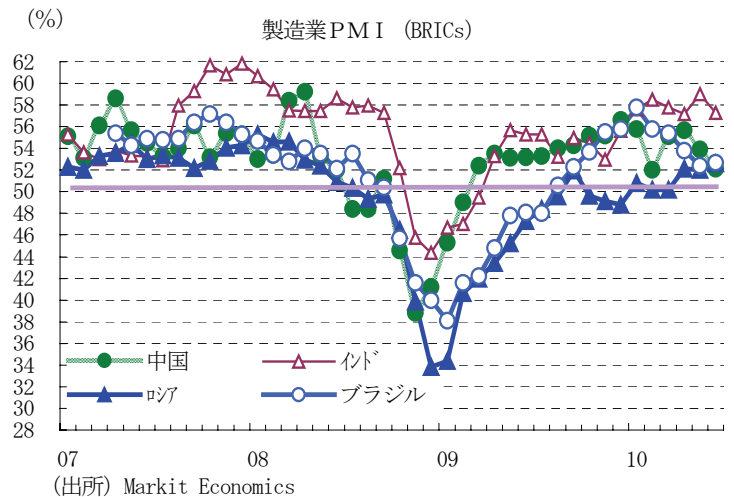
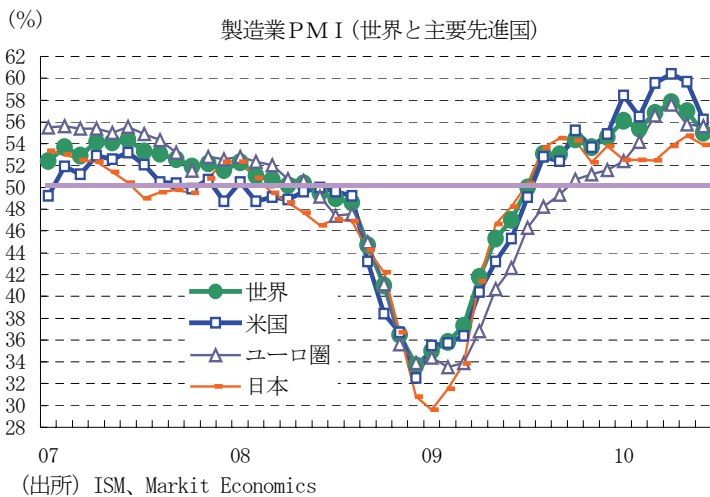
今後に関しては、景気対策による最終需要の持ち直しや、ハイテク需要の拡大傾向、在庫復元の動き等による生産活動の活発化を背景に、2010年のI S M製造業景気指数は高い水準で推移すると見込まれる。ただし、トレンドの変化に先行する新規受注・在庫比率が09年8月をピークに10年3月にかけて低下したことから、I S M製造業景気指数は年後半緩やかに低下すると予想される。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



世界製造業景気指数は 高水準を維持しており 世界的に製造業部門が 景気回復を牽引

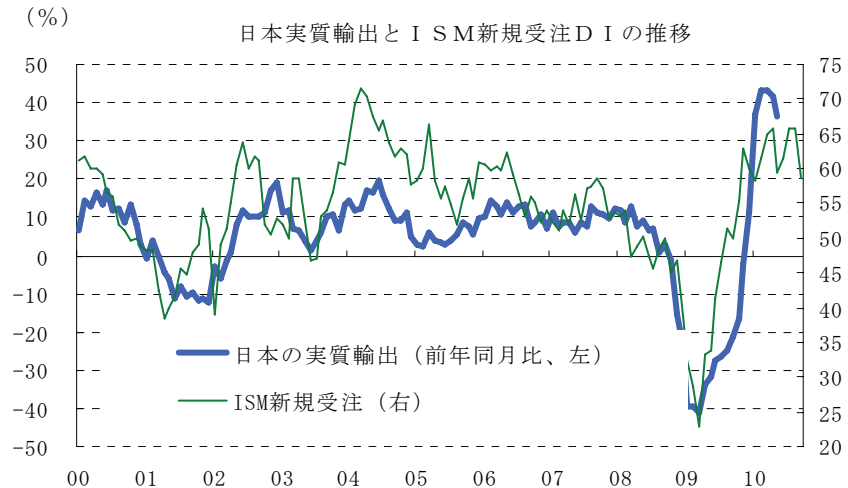
輸出受注DIが6月に56.0と前月比▲6.0%ポイント低下したが、拡大縮小の分岐点である50を上回っていることから、新興国、日本、ユーロ圏など世界経済の拡大持続を示唆している。実際、6月の各国の製造業景気指数をみると、ユーロ圏が9ヵ月連続で50を上回り、水準も高い。日本でも安定的に拡大している。新興国では、インドが高い水準を維持し、ブラジル、ロシアが上昇した。中国は鈍化したが、50を上回っているうえ、季節的な影響で低下したとみられ、一時的な動きと考えられる。これら各国の数値を合成した世界製造業景気指数は、6月に55.0（前月57.0）と前月から低下したものの、高い水準を維持しており、製造業部門は世界的に速いペースで拡大している。



各国の米国向け輸出の 拡大ペースは、今後数 ヶ月に亘り高い伸びを 維持

全体の動きに遅れて動く傾向がある輸入DIが56.5と前月比変わらずとなり高い水準を維持していること、日本の輸出・生産に先行する傾向がある新規受注DIが前月比▲7.2%ポイント低下したが58.5と高い水準を維持していることから、日本を含む先進各国や、BRICsなど新興国の米国向け輸出の拡大ペースは、今後数ヶ月に亘り高い伸びを維持すると予想される。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

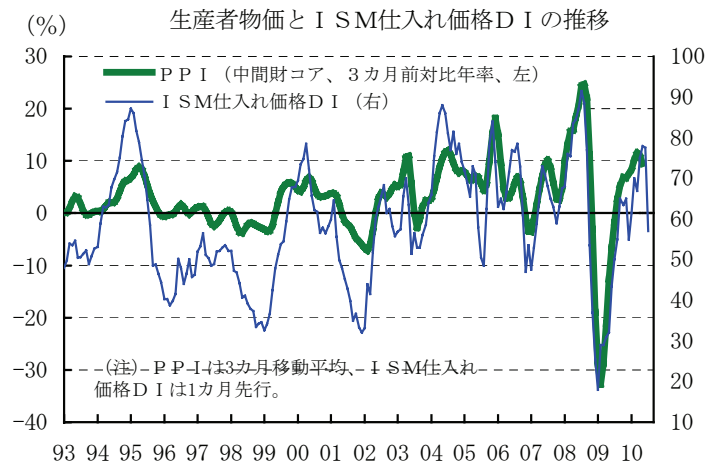
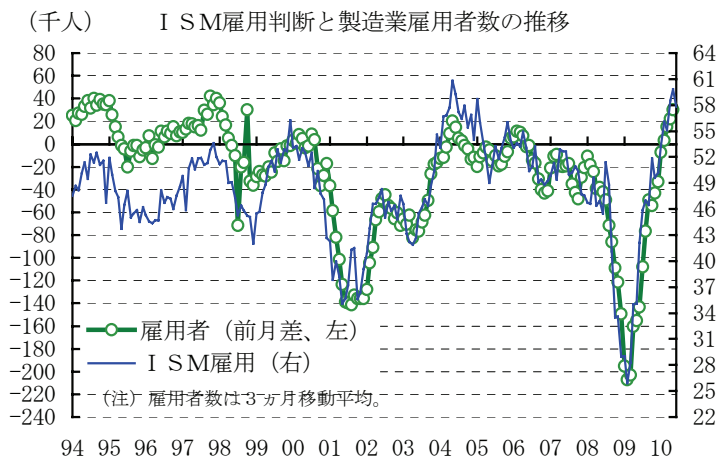


**雇用DIは57.8と6月の製造業雇用の増
加幅縮小を示唆**

雇用DIが57.8と水準が高いが前月比2.0%ポイント低下したため、6月の製造業雇用者数は増加幅を小幅縮小すると予想される。価格競争の激化の中でコスト削減圧力は強く、今後も製造業部門での雇用の増加ペースは緩やかなものになると見込まれる。

**仕入価格DIは57.0
と川中でのインフレ
圧力は急激に弱まっ
ている**

仕入価格DIは、57.0と前月から20.5%ポイント低下した。欧州債務危機などを受けた商品価格の下落によって川中でのインフレ圧力が急激に弱まっており、今後企業収益を下支えする要因となろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。